

## イタリアで首相交代

発表日：2014年2月14日(金)

～政治安定で改革は前進するか？～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主席エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

◇ イタリアのレッタ首相が辞意を固め、与党民主党のレンツィ幹事長が後継の首相に就任する可能性が高まった。政局が不安定化する恐れがある早期の議会解散・総選挙は回避されるとみられ、改革派の新政権発足で政治的な安定が高まると評価されている。多くの構造問題を抱えるイタリアの経済安定の行方は、新政権の改革手腕に掛かっている。

イタリアの与党第1党の中道左派・民主党（PD）は14日の幹事会で、改革停滞を理由にレッタ首相の退陣を求め、昨年12月に党幹事長に就任した若手改革派レンツィ氏の後継指名を決定。レッタ首相は同日、退任の意向を固めた。議会の解散権を持つナポリターノ大統領は、選挙制度改革の実行以前に議会の解散（現会期は2018年まで）・総選挙の実施に消極的。従来、民意を問わない（選挙を経ない）権力移譲に否定的であったレンツィ氏も、解散総選挙を回避する方針。大統領は近くレンツィ氏に新政権の樹立を要請するとみられ、現政権で連立を組む少数政党の支持を得て、来週中にも新政権が発足する公算が高まった。

総選挙後の連立交渉の膠着後、昨年4月に誕生したレッタ政権は僅か10ヶ月で幕を下ろすこととなった。党内の支持基盤が弱いレッタ首相は、次期首相就任の機会を窺っていたレンツィ氏の幹事長就任で、党内の権力掌握が益々難しくなり、両者の対立が表面化していた。党外では、議員資格を剥奪されたベルスコニコ元首相が率いる最大野党フォルツァ・イタリア、コメディアン出身のグリッロ氏が率いる反体制派の五つ星運動が勢力を盛り返しており、現時点での再選挙実施は再び政治膠着を引き起こす恐れがあった。

現政権を支える中道政党・市民の選択（モンティ前首相は既に離党）やアルファノー副首相が率いる新中道右派（NCD）は早期の議会解散・総選挙の実施を望んでおらず（最近の世論調査の政党支持率では議席獲得に必要な最低票を獲得できない恐れがある）、レンツィ政権の発足に協力する可能性が高い。政治停滞を招く恐れがある総選挙が回避され、改革派の新政権が発足することで、政治的な安定が高まるとの見方から、イタリア国債の利回りが低下している。同国が年後半に輪番のEU議長国に就任することも、目先の解散総選挙のリスクを軽減することにつながる。

経済・構造改革の停滞、選挙制度・司法制度・行政改革の難航、競争力・生産性の低迷、緩慢な経済成長、財政健全化の達成が危ぶまれるなど、イタリアを取り巻く環境は引き続き厳しい。今は政治安定につながる動きと評価されているが、新政権の下で改革が前進するか否か、真の評価はこれからだ。野党勢はモンティ元首相→レッタ首相に次いで選挙を得ない首相が誕生する可能性がある点を批判し、総選挙の実施を求めている。近く議会で採決が予定される選挙制度改革法案（詳細は1月22日付けの「イタリア政局安定に向け前進 ～選挙制度改革で二大政党がタッグを組む～」を参照されたい）の成立後に、さらなる政局へと展開していくか予断を許さない。

以上